

# 建築士 やまなし

No.82

— ARCHITECTURE YAMANASHI —



## 特集

## 2040プロジェクト

連載第3回目

## 「STEP 3・3.5」



### ●目次●

ごあいさつ	山梨県県土整備部長 飯野照久	2
会長就任挨拶 一般社団法人 山梨県建築士会会長 長田正彦		3
令和4年春の叙勲旭日小綬章を受章して		
一般社団法人 山梨県建築士会名誉会長 雨宮健一		4
第5回 山梨県建築士の集い 副会長・青年部相談役 高相正樹		4
令和4年度 通常総会議事録		5
令和4・5年度 理事及び監事 委員会名簿		6
青年部 部長 挨拶	青年部 部長 小林弘幸	7
関プロ青年協長野大会最優秀賞受賞等報告		
令和3年度会長 青年部相談役 石和支部 長坂 治		7
2040特集プロジェクト STEP3・3.5		8・9
瑕疵保険&ZEHのすまいの勉強会	女性部部長 松浦芳恵	10
第55回 建築士会親睦スポーツ大会のご案内		10
県からのお知らせ 会員の動静		11

# ごあいさつ

山梨県県土整備部長

飯野 照久



残暑の候、一般社団法人山梨県建築士会の皆様におかれましては、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃から建築物の防災対策や景観に配慮したまちづくりなど、本県の建築行政推進の様々な場面において御理解、御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、県では、将来における社会経済活動の持続的な発展、ならびに県民生活の更なる豊かさの実現に貢献する社会資本を整備していくため、『やまなしを「いかす」「まもる」「つなぐ」県土づくり』をコンセプトとした山梨県社会資本整備重点計画（第四次）に基づき災害に強くしなやかな県土づくりを進めています。

特に、将来を見据えた道路ネットワークの整備やインフラの老朽化対策、自然災害への備えなどの県土強靱化は、計画的かつ継続的に推進していくことが必要であり、昨年には、国道138号須走道路・御殿場バイパス及び中部横断自動車道山梨・静岡間が開通し、災害時のリスク回避に大きく寄与するとともに、観光や産業の振興にも大いに期待が高まっています。

建築の分野では、『「まもる」やまなし』として、住宅・建築物の耐震化の促進に、『「つなぐ」やまなし』として、空き家対策の推進に取り組んでいます。

住宅・建築物の耐震化の促進に関しては、昨年3月に「山梨県耐震改修促進計画」を見直し、新たに令和7年度末の住宅の耐震化率

の目標を95%とするとともに、避難路沿道建築物の耐震診断の報告期限を令和5年3月末までに延長し取り組んでおります。

また、空き家対策の推進に関しては、民間事業者が空き家を活用したビジネスに参入しやすい環境を整えるため、県に空き家活用ビジネス官民連携相談窓口を設置し、事業者と空き家の所有者とのマッチングを図るとともに、空き家を提供する所有者に、改修に要する費用を助成する制度を創設し、二拠点居住など東京一極集中の是正につながる施設には重点的に補助を行っております。

こうした施策を含めて、本県の住生活分野での取り組みを充実・加速させていくため、本年3月に「山梨県住生活基本計画」の見直しを行ったところであり、二拠点居住など新たなライフスタイルの実現や流域治水対策と連携した安全な住まいの確保、脱炭素社会の実現などを新たな目標として盛り込みました。

建築産業界においては、ウッドショックやウクライナ情勢による建築資材価格の高騰などにより、厳しい状況も見受けられますが、建築士の皆様におかれましては、豊富な専門知識や卓越した技術力を最大限に発揮していただき、建築設計業務を通して、災害に強くしなやかな県土づくりの実現に向け今後とも御協力をお願いします。

結びに、山梨県建築士会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を御祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。

# 会長就任挨拶

一般社団法人 山梨県建築士会

会長 長田 正彦



この度、山梨県建築士会会長を拝命いたしました長田です。建築士会は設立から今年で70年を迎え、会長職は私で10代目となります。雨宮前会長におかれましては9年に亘り本県建築士の育成や建築文化の向上など幅広い分野において建築士会や建築業界全体の発展に多大な功績を残されました。改めて敬意を表しますとともに、その重責を引き継ぐことは身の引き締まる思いであります。雨宮前会長が残された功績を更に発展させるべく建築士会の運営に取り組んで参ります。

さて、コロナは、依然として終息が見えない状況が続いています。この1年間の建築士会の事業活動を振り返りましても、コロナ対策の為に全国大会は規模を縮小しての東京開催となり、スポーツ大会は2年連続して中止を余儀なくされました。一方で会議や講習会等はオンライン化が導入され、新たな形式が浸透してきております。特に当会が委託を受け実施しております「定期講習会」や「既存住宅状況調査技術者講習会」においては、今年度から申し込みから終了考査まで全てオンライン化により運営される講習会もスタートしました。新しい時代のニーズに答えるとともに、緊急時においても社会を回していけるシステムづくりの一環として、当会としても適切に対応して参りたいと考えております。

こうした変革のほか、近年、建築士を取り巻く環境は刻々と変化しており、私共建築士が果たすべき役割や課題について3点、触れさせ

ていただきたいと思います。1つ目は建築士の育成であります。少子高齢化による人口減少により、人材確保や若手技術者の育成は建設業界全体の課題となっています。こうした課題への取り組みとして連合会と連携し各種講習会や研修会の開催、若手建築士の集いなど、会員の皆様の協力を頂きながら、建築士を夢み志してきた技術者の育成に取り組んで参りたいと考えています。2つ目として災害への備えであります。地震災害に対する平時からの支援体制の整備や訓練等のうち、応急危険度判定制度は地震発生後の二次災害から県民の命を守るために極めて重要なことから、引き続き判定士の養成や伝達訓練の実施など、行政と連携しながら推進してまいります。3つ目として良質で文化的な建築物の形成と良好なまちづくりの推進です。建築文化賞の運営や空き家対策など、関係団体と連携して行政への支援を行いながら、やまなしの良好で魅力あるまちづくりに貢献して参ります。

結びに建築士会は建築士の皆様が自らの意志で集い、研鑽し、交流する集団であります。こうした建築士の集団である山梨県建築士会の運営に携わる身として、会員相互の連携や交流を深めながら、当会の発展に取り組んで参る所存ですので、今後とも士会運営に対しご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。

## 令和4年春の叙勲旭日小綬章を受章して

一般社団法人 山梨県建築士会

名誉会長 雨宮 健一



白駒はっくの隙げきを過すぐるが若ごとしと言いますが、故 渡邊正 元会長からご遺志を引き継ぎ、9年の歳月が過ぎ去りました。後半は新型コロナに振り回され、思うような建築士会の活動が出来なかった3年間に悔やまれます。そんなコロナ禍ではありますが、6月18日に開催された関ブロ青年協長野大会では、青年部が地域活動報告で最優秀賞に選ばれました。また、建築士試験も嚴重な感染対策の中、通常通り開催され多くの建築士が誕生致しました。険しい逆境の最中ではありますが、会員の皆様の努力が一つ一つ実を結んだ結果ではないかと感じています。

さて、私事で大変恐縮ではありますが、今年度の春の叙勲で旭日小綬章を授与されました。振り返れば、一般社団法人山梨県建築士会の会長として、自分の中では何一つ満足に達成出来なかったように反省する事柄ばかりです。そう考えますと、私個人が戴いたのではなく、

会員の皆様の建築に向き合う日頃の努力の賜物が評価を戴いて、皆様の代わりに代表して授与されたものと認識しています。そして、そのことが、これから建築士を目指す方々、建築士として活躍されている方々の励みの一助となれば幸甚と思います。

建設産業は、社会にとってなくてはならない産業です。災害時には、その最前線で地域社会の安全・安心の確保を支える「地域の守り手」として、大変重要な役割を果たします。災害に強い国土の形成に向け、次世代への技術の継承に、これからも会員の皆様と一丸となって尽力していく所存です。最後になりましたが、会長在任時の皆様の御協力への感謝を心より御礼申し上げますと共に、新たに就任されました長田会長への更なる皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

## 第5回 山梨県建築士の集い

副会長・青年部相談役 高相 正樹

令和4年2月26日、前年に続きオンラインで建築士の集いを開催しました。司会は女性部の協力を得て、中継は前回同様に専門業者による配信で200回を超える視聴をいただき、多くの関係者に青年部の活動を伝えることができました。

第一部の地域実践活動報告では、夏休みの小中学生を対象にした職業体験講座など青年部が継続して取り組んできた「未来の建築士」のための活動や本会での委員会行事など、県内各地で活躍する建築士の取り組みを紹介しました。

第二部の基調講演では、県政出張講座「よみがえる甲府城と城下町」と題して、横浜市立大学の鈴木伸治教授と県文化振興・文化財課の野代恵子さんに、横浜と山梨を繋いだリレートーク形式で講演していただきました。野代さんからは県民会館跡地に甲府城石垣と内堀を復元してスクランブル交差点に面したイベント広場を整備し、地域活性化を図る計画を伺いました。鈴木教授からは小田原城周辺まちづくりなどを事例に、現代の開発が歴史的景観に及ぼす影響やそれに対する地区計画による景観規制、またデザインの追及で景観を整える必要性を教えてくださいました。「設計者の力量が問われる」と投げ掛けられた私たちに何ができるか

を考えながら、甲府城周辺の「交流と修景」をテーマとした今後の「ウォーカブルなまちづくり」に期待しています。

コロナ禍でのこれからの日常を考えると、自分たちが生活する地域に目を向け、宝である文化財を活かしながら交流と賑わいを創出し、魅力と価値を向上させることが求められます。そんな「再発見」を与えてくれた先生方の経験や言葉を教えとして、私たち建築士は地域とのより良い関係のために日々研鑽を積む必要があります。各々が社会に貢献することで信頼獲得を目指しましょう。ちなみに私は健康診断で減量が問われたので、カメラ映りを意識して自宅周辺で「健康と美容」をテーマに「ウォーキングによる体づくり」で日々鍛錬に励みたいと思います。



令和4年度

# 通常総会議事録

一般社団法人 山梨県建築士会

令和4年5月31日(火) 14時00分より甲府市相生2丁目2-17、甲府商工会議所5階多目的ホールにおいて、令和4年度通常総会を正会員982名中534名(委任状477名出席者57名)の出席を得て開会した。(総会は、一般社団法人山梨県建築士会 定款第22条の規定により、正会員の3分の1以上(327名)に達したので開会は有効とする。)

開会のことばを副会長 望月 雄二君が述べ、物故会員の黙祷、会長あいさつを会長 雨宮 健一君が述べた。

次に、各支部より推薦された甲府支部 金井 一憲君他6名に対し会長より感謝状と記念品の贈呈が行われた。

次に、来賓6名を紹介し、山梨県県土整備部 飯野 照久部長並びに甲府市まちづくり部 石原 修部長より祝辞をいただき、公益社団法人日本建築士会連合会の近角 真一会長からの祝電を披露し、議事に入る。

議事に入る前に、一般社団法人 山梨県建築士会 定款第20条の規定により、会長 雨宮 健一君が議長となる。

続いて、議長より、定款第24条第2項の規定により、議長が議事録に署名する旨を説明し、承諾を得た。

議事に入り、第一号議案「令和3年度事業報告の件」及び第二号議案「令和3年度収支決算の件並びに公益目的支出計画実施報告の件」の両議案を一括上程し、事務局より説明があった後、監事の小林 一夫君より「厳正且つ適正に処理されている」旨の監査報告がなされ、議長が議場に諮ったところ全員異議なき旨の声があり、承認可決された。

次に、第三号議案「役員の選任に関する件」について、事務局より5月11日に開催された理事会において、令和4年度・5年度の理事37名及び監事2名の候補者が選出された旨の説明があり、議長は理事及び監事の役員候補者全員を一括して採決することについて議場に諮ったところ「異議なし」の声により議長は一括採決が承認されたと宣言し、可否を諮ったところ、全員異議なく承認された。なお、被選任者はその就任を承諾した。

続いて、議長は定款第26条第2項の規定により、会長及び副会長は理事会の決議により理事の中から選定すると規定されているため、これから理事会を開催することを宣言し、選任された理事、監事も異議がないことから別室にて理事会を開催するため、議場に新役員による理事会の間、暫時休会を宣言した。(休憩：15時00分～15時15分)

事務局より、次のとおり理事会の選定結果を報告した。

会長 長田 正彦君

副会長 渡辺 讓君、土谷 芳仁君、高相 正樹君

名誉会長 雨宮 健一君

なお、定款第25条第3項の規定により、会長は一般社団法人等に関する法律に規定する代表理事、副会長3名は同法第91条第1項に規定する業務執行理事として報告した。

続いて、新旧の会長及び副会長を代表し、旧会長 雨宮 健一君が退任のあいさつをし、新会長の長田 正彦君が就任のあいさつをしたのち議長となり、議事の再開を宣言した。

次に、第四号議案「令和4年度事業計画の件」並びに第五号議案「令和4年度収支予算の件」について、事務局より説明が行われ、全員異議なく原案どおり承認された。

次に、第六号議案「令和4年度終身会員選出の件」について、事務局より、理事会で選出された甲府支部 埴原 佳長君他5名の終身会員について説明があり、同意を求めたところ全員異議なく承認された。

次に、議事その他として、事務局より、令和4年度の主な行事について報告がなされた。

議長は議事進行に対する協力を謝して議長席を降りる。

終わりに、その他として、青年部長 小林 弘幸君より青年建築士協議会 2022長野大会について説明がなされるとともに、事務局より、建築士賠償責任補償制度等の配布資料について説明がなされた。

議事が終わり、副会長 渡辺 讓君が閉会のことばを述べ、ここに令和4年度通常総会は、15時40分盛会裡に無事閉会した。

令和4年度 会長表彰者(7名) (敬称略)

氏名	所属支部
金井 一憲	甲府支部
遠藤 恭範	甲府支部
内藤 清仁	中巨摩支部
伊藤 清	石和支部
二宮 英富	市川支部
井上 貴文	北富士支部
志村 剛	大月支部

# 令和4・5年度 理事及び監事名簿

(敬称略、役職順・五十音順)

会 長	長田 正彦			
副会長	渡辺 讓	土谷 芳仁(会計)	高相 正樹	
理 事	秋山 昭	秋山 洋一(中巨摩)	網野 淳也	雨宮 健一
	荒木 和久(石和)	池谷 勝 (都留)	勝村 公二(塩山)	金井 一憲(甲府)
	河西 聡	久保 正樹	小林 弘幸(青年部)	坂本 一春(韮崎)
	佐々木 幸一	佐野 晃通	田邊 佳子	丹沢 浩己
	利根川 康夫	内藤 聡	長澤 浩正	二宮 英富(市川)
	羽田 咲夫	藤田 幸二(身延)	保坂 昌司	松浦 芳恵(女性部)
	松木 謙	松坂 裕二	松野 範子	溝呂木 克人(大月)
	山崎 宗彦	若狭 美穂子	渡井 攻	渡辺 武則(北富士)
	渡邊 三七登			
監 事	新谷 憲司	小林 一夫		

# 令和4・5年度 委員会名簿

(◎：委員長 ○：副委員長)

(敬称略) (役職順・五十音順・連合会委員会構成順)

## 【総務委員会】

◎ 渡辺 讓 ○ 秋山 昭 雨宮 健一 佐野 晃通  
 代田 一郎 堤 美鈴 利根川 哲也 保坂 昌司  
 宮原 仁 渡井 攻

## 【研修委員会】

◎ 金井 一憲 ○ 進藤 哲雄 網野 隆明 雨宮 眞司  
 小田切 崇 内藤 清仁 長坂 治 初鹿 和久  
 丸茂 邦仁 若狭 美穂子

## (連合会まちづくり委員会)

まちづくり委員長、景観まちづくり部会員：進藤 哲雄  
 防災まちづくり部会員：小田切 崇 歴史まちづくり部会員：網野 隆明  
 街中(空き家)まちづくり部会員：長坂 治 福祉まちづくり部会員：若狭 美穂子  
 木のまちづくり部会員：丸茂 邦仁

## 【福祉委員会】

◎ 土谷 芳仁 ○ 佐々木 幸一 網野 淳也 一之瀬 慎司  
 羽田 咲夫 松木 謙 松坂 裕二 松野 範子  
 溝呂木 克人 渡辺 武則

## 【編集委員会】

◎ 山根 健司 ○ 小林 進 秋山 洋一 金丸 勝仁  
 河野 広 丹沢 浩己 内藤 聡 中澤 幸子  
 守屋 恵子 和田 之男

## 【資格審査委員会】

◎ 高相 正樹 ○ 河西 聡 新谷 憲司 田邊 佳子  
 利根川 康夫 星野 幸美 松浦 芳恵 望月 喜二  
 山崎 宗彦 渡邊 智彦

## 青年部部長挨拶

この度、青年部部長に就任いたしました小林弘幸と申します。私たち青年部の活動に日頃から多大なるご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

私は、これまで山梨県建築士会の青年部員として会計や副部長を8年ほど、それと並行して関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会（通称関ブロ青年協）の理事を先日まで4年間務めてまいりました。

それらの活動を通じて自県や他の都県の建築士の方々と意見交換をする中で、全ての都道府県が共通して抱えている問題点として、建築士試験の受験者数・合格者数の減少により建築士会員が減少してきているということに対する危機意識があります。

こういった状況を改善させるべく、連合会長をはじめ、諸先輩方のご尽力により、令和2年度から新しい建築士制度（建築士試験の受験資格の見直し、建築士試験に係る実務経験の対象実務の見直し、学科試験免除の仕組みの見直し）が始まり、より若い世代の人たちが建築士試験を受けられるようになり、青年建築士が増えることが

## 青年部部長 小林 弘幸



期待されています。

このような状況に対する受け皿としての役割を担うために、私たち青年部はこれまでも、今年の2月で5回目の開催となりました『建築士の集い』や、昨年度に引き続き今年度も8月に実施した、小中学生向けの『職業体験講座 建築士のしごと』など、様々な活動を行ってきておりますが、これらの活動の根底には『未来の建築士を育むため』という気持ちがあります。

最後になりますが、私たち青年部は支部（地域）ごとの活動ではなく、山梨県内全体で活動を行っているため、次世代を担う青年建築士会員の方がいる支部につきましても、将来の支部を担う人材としてだけでなく、将来の山梨県建築士会を担う人材を育てるためという気持ちで、是非、私たち青年部の活動に積極的に送り出していただけますようお願い申し上げます。

## 関ブロ青年協長野大会 最優秀賞受賞等報告

関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会  
令和3年度会長 青年部相談役  
石和支部 長 坂 治

関ブロ青年協長野大会（令和4年6月18日開催）にて、甲府支部青年部での官民協働活動を題材にした、遠藤恭範さん発表の「スクール☆ウォーズ～「ずく」無し建築士の45日戦争～」が、最優秀賞を受賞しました。第一分科会（テーマ『再生に向けた想い』）地域実践活動報告での出来事で、「山梨県建築士の集い」でも注目の集まった活動です。投票や感想からも、その充実した内容を青年建築士に分かりやすく伝えたことが評価されています。

第一分科会の発表の機会は、個人やチームでのチャレンジにより起こせた変化など、それらを持ち寄り、持ち帰るものです。発表にチャレンジすることは、自らの成長につながる機会でも、まだ経験されていない方にも、経験のある方にも、どんどんチャレンジして欲しい分科会

です。

関ブロ青年協理事会は、令和3年度はこの長野大会を運営する長野実行委員会をサポートする役割を持ち、10都県の建築士が協力し、自ら進んで理事会や理事会付属の3部会を作り活動し、長野大会を全うすることができたのではないかと考えております。

青年部の皆様の協力で、青年部でも関ブロ青年協でも、この上ない布陣を組むことができ、充実した会長年度とすることができましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。第一分科会での最優秀賞受賞が、現在の強力な布陣であることをあらわしてくれています。

今後とも、関ブロ青年協活動へのご理解ご協力そして後押しをお願いし、関ブロ青年協長野大会の報告とさせていただきます。





STEP3 「甲府盆地を世界一美しく魅力的な盆地へ」

2040年に甲府市の人口20万人を40万人にすることを目標に掲げスタートした「2040PROJECT」。快適で魅力的な地域にするための提案として、ステップ1、2を踏まえ、ステップ3ではリニア新幹線開通を見据えて、リニア新駅と甲府駅を結ぶ甲府新都市軸(ミドリオ)とクラスター型パイロット開発による甲府盆地の開発ビジョンを提案しました。

甲府新都市軸—Mid-Rio (ミドリオ)

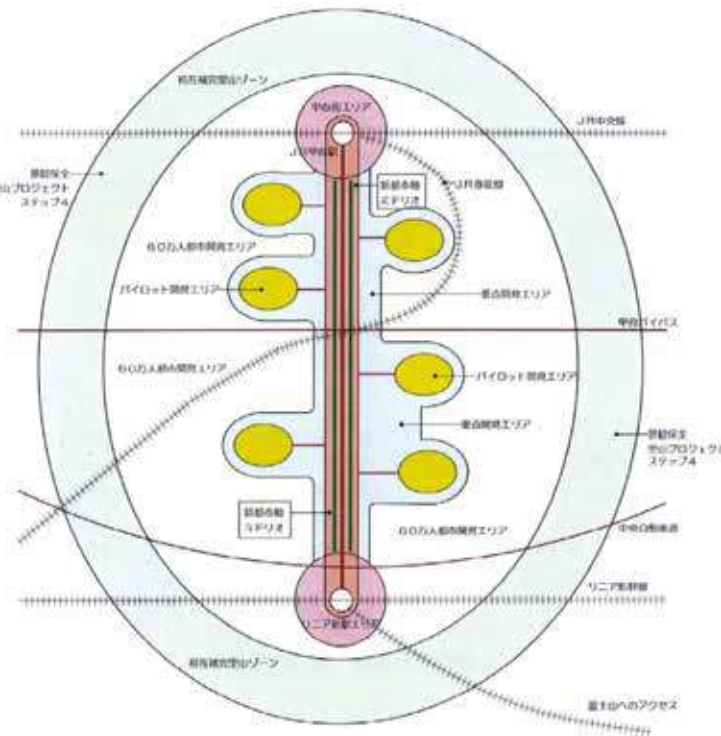
Mid-Rio (ミドリオ) は中央・中間を意味する「ミドル」と、スペイン語で川を意味する「リオ」を合わせた造語で、甲府盆地の中央部を縦断する緑に囲まれた河川公園という意味があります。

ステップ1作成時から荒川河川敷を整備した河川公園の提案を行ってきました。ステップ3ではリニア新駅を通じて、甲府盆地中心部は良好な居住環境をもつ市街地としてのインフラ環境を行い、その計画の核としてリニア新駅と甲府駅を結ぶ複合的な用途をもつ都市軸(ミドリオ)創設の提案です。景観を含む環境整備を行うことによって、地域の地力(価値)を高める努力こそが未来の為に必要

だと考えます。休日には市民で賑わい、市民に愛される魅力ある河川公園を提案します。



Mid-Rio (ミドリオ) イメージ



盆地の長期ビジョン 出来るだけ全体像を描こう

ミドリオを中心として、各々の地域特性を生かしたパイロットプランをタイムリーに繋げることにより、甲府盆地中心部は首都圏からの移住者や、県外企業から受け入れられるエリアになり、首都圏からの新しいライフスタイルを志向する人々の受け皿になります。

- ① 甲府新都市軸—Mid-Rio (ミドリオ)  
以下パイロットプランとしての提案
- ② ワークライフバランス街区
- ③ アクティブシニアタウン
- ④ 防災危機管理センター (国施設誘致)
- ⑤ フィユモンテスタジアム
- ⑥ ノマドメッセ
- ⑦ レディースコア
- ⑧ フードガレージ (甲府市場)
- ⑨ 甲府アートアベニュー
- ⑩ ストックイノベーション
- ⑪ リニア駅舎提案
- ⑫ スーパースマートインター甲府
- ⑬ 甲府グリーンリノベーション

詳細な提案書は右のQRコードからご覧いただけます。是非ご覧ください。





ぶどう  
緑化

による甲府市中心街活性化計画

2040  
PROJECT  
STEP3.5

山梨建築設計4団体合同2040プロジェクト実行委員会

## STEP3.5「ぶどう緑化による甲府市中心街活性化計画」

山梨の代表的な特産品である「ぶどう」を使って、地域独特の景観を創り出すことにより、多岐に渡る地域活性化への効果を期待する計画です。ステップ2では市街地緑化をテーマに掲げ「グリーンリノベーション甲府」を提案し、そのことが起因となり「オリオンイースト緑化プロジェクト」を行い、環境景観美化による実践活動にも取り組んできました。私達はこれらの活動や経験を通じて、地域の活性化は「その地域に合った地道な環境景観美化活動」が有益であり、それには官民が協力（経済・人員・適切な手法等）して取り組むことが必要だと強く感じました。ステップ3.5の実践活動として、甲府市中心市街地にぶどうの鉢植え配付や地植えを行いました。特色ある街へと繋ぎ、地域の人々が自分の街に誇りをもてるような景観づくりとして「ぶどう緑化」を提案しました。



甲府市中心市街地のぶどう生育状況

## エピローグ ステップ1からすべては始まった。

2040年4月甲府の人口が40万人を超えた。記念してプロジェクトメンバーは甲府街中葡萄棚でつくられたワインで乾杯した。音頭はワインバー共同経営者の二人NとTである。10年前に街中にワイナリーを作ったKとMはこの日の為に10年物を用意した。

2030年は量子コンピューターやエネルギー・蓄電池等の革命的な技術が誕生し炭素税の導入で県税収が大幅に伸び、暮らしやすさ日本一となった。3年遅れでリニアが開通。リニア甲府駅とJR甲府駅間を2040プロジェクトの提案通り自動運転でCO2排出ゼロの新交通システムで結ばれ、荒川セントラルパーク構想により河川敷周辺が特徴的な景観に整備されると、2040プロジェクト提案を採用した民間業者による計画が次々と実施され企業移転、移住が活発になった。周辺市町村にも2040プロジェクトの提案が浸透し、山梨らしい豊かな暮らし方と環境整備が価値を創出し、行政と民間が力を合わせて地域の特徴を生かした2拠点居住や移住を推進。中小企業が農業とエネルギー生産に自社仕事を兼業した働き方提案で、CO2排出ゼロ企業を目指せる提案に着目して企業移転が活発化する。子育て支援街づくりを推進していたWとTはNPOを設立して活躍している。山梨大学にも建築学科ができTとAは準教授として活躍している。SとNは地域支援会社を作り、官と民を繋ぐ仕事で成功している。

これらの成果は、2022年の前年プロジェクト活動10周年を記念して新たにMAP2040としての提言がベースとなっている。新型コロナウイルス感染拡大は私達に山梨の暮らし、仕事、生活環境等を深く考える機会を与えた。当時のメンバーは各々提案を持ち寄り提言をまとめた。机で考えるのでは無く、地元を歩いて特徴を見つけ真剣に向き合った日々が実を結んだと確信している。当時を振り返ると建築設計に携わる私たちが初めて体験する人口減少・少子高齢化と縮小する経済、先行きへの不安を抱えた時、私たちの所属する団体の先輩方がこれからの50年を見据えて「2040プロジェクト」という活動する機会を与えてくれた事がすべての始まりであった。このプロジェクトに感謝。

2040プロジェクト サブリーダー 丸茂邦仁

# 瑕疵保険 & ZEHのすまいの勉強会

女性部部长 松浦芳恵

建築士の私たちは現場に行く時どこをチェックすればいいか、わかっているようでわかっていない、間違いに気が付き的確に指示できたら・・・と思ったことがあると思います。

建築紛争委員をしている私は、トラブルを見ているので特に気にしています。

そんなことからJIOの深松所長をお迎えして、7/13に今回の勉強会を企画しました。

日頃現場をチェックしている立場の方からの話は、とても勉強になるものでした。配筋検査時、躯体検査時のチェック事項、更にオプション検査になる防水検査、断熱検査、完成検査などを行い完璧にすることで、性能の良い建物をお客様に提供することができるかと改めて思いました。また、「防水施工マニュアル（住宅用防水施工技術）2021」を教えていただいたのでこれを持って現場に行きたいと思いました。現場任せではなく設計の立場からもチェックすることを的確にしようと

思います。

その後、ZEHの説明もしていただきました。最近の法改正や補助金事業に直結していることなので興味深く、すぐにでも申請する人がいたので参考になりました。

コロナ渦の中、久しぶりの勉強会でしたが20名ほどの出席者となり、再会できたことをとても嬉しく思いました。また、これからも仕事に活かせる勉強会や、グラウンドゴルフ大会などを通して親睦を深めていけたらと考えています。



## 第55回 建築士会親睦スポーツ大会（グラウンドゴルフ）のご案内

1. 日程 令和4年10月29日（土）※半日開催

- ・時間の詳細は参加者に別途連絡します
- ・雨天の場合は開会式のみ開催します

2. 会場 鳴沢村生き生き広場

（南都留郡鳴沢村8531-45）

3. 出場資格及びチーム編成

①10月28日現在、正会員及び準会員とする。

②1チーム6名（各支部2チーム）

③年齢基準なし

4. 申し込み方法

出場希望者は所属支部長に申し込みをし、支部長はチーム責任者の氏名を希望者に連絡した上で、9月30日（金）までに事務局に名簿を提出して下さい。